

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続特殊前兆続報 CH20・CH21前兆変化から修正→4月9日±1を示す可能性

前情報でNo.1778 第14ページとNo.2710 両方が示した3/25 ±に対し、CH21の極大を考え、以降の前兆変化から次に示す時期を考察致しました。

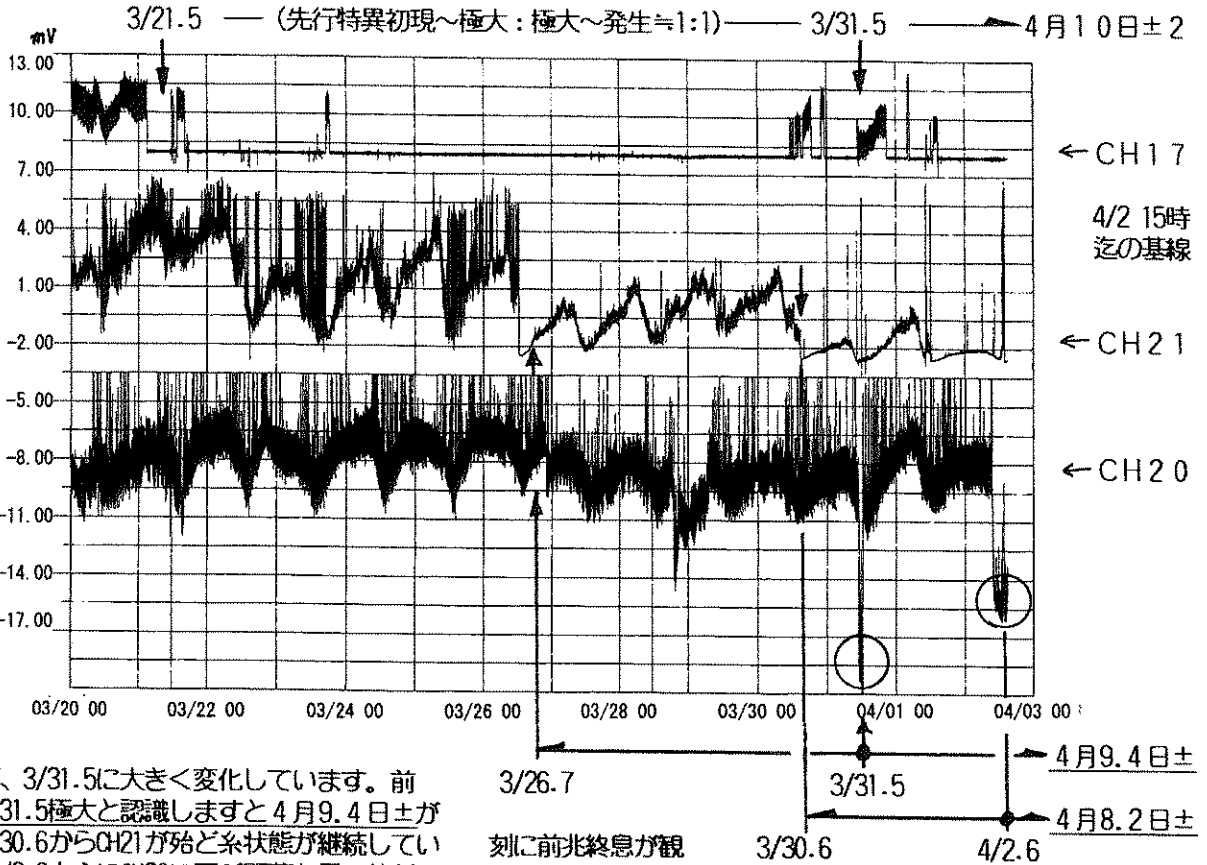
その後の実際は右波形のとおりの変化を示します。

CH21の短時間系状を極大とするより、3/26.5からCH21の基線状態が大きく変化していること、同日3/26.9からCH20に特異が継続出現している点を検討し、両変化開始中心3/26.7を初現と検討し直しました。

右波形の3段目の波形はCH20ですが、3/31.5に大きく変化しています。前述の3/26.7初現-3/31.5極大と認識しますと4月9.4日±が示されます。また3/30.6からCH21が殆ど系状態が継続しています。そして本日4/2.6中心にCH20に再び顕著な電圧値低下の変動が出現致しました。本日4/2 16:30 現在CH20は上昇傾向。3/30.6を初現-4/2.6極大と認識しますと4月8.2日±を示します。

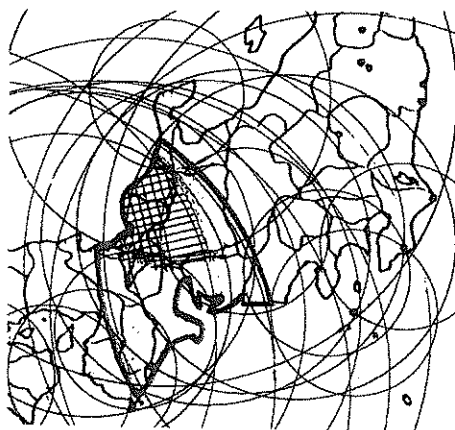
当初次の前兆初現の可能性と見たCH17系状継続特異は、変化の様子からも先行特異である可能性があります。その認識の場合は再上段に記載。少なくとも現在の変化からは4月7日以前に発生の可能性は考えられないこととなります。

仮に現在の認識が正しく4月9日発生の場合は4月7日夕



刻に前兆終息が観測されることとなります。3/26以降のCH21電圧低下部分が短時間であることから極大では無い可能性として検討しました。今後の変化を鑑み続報。

※4/1 11:39 頃発生の三重県南東沖M6.1-10km(まだ気象庁速報値段階)は海深2000~3000m 海域で海深減衰-M2.8で前兆規模=M3.3となり、前兆検知不可能規模地震でした。ちなみにこの領域ではM7.7 ±以上なら前兆検知可能。より陸に近い海深500~1000m等ではM7.0 ±規模で検知可能。実際に過去に検知実績有。



- ◆推定領域：左図太線内領域=大枠推定  
斜線領域=可能性考え易い領域  
ダブル斜線領域=参考推定領域

◆推定規模：M7.8 ± 0.5

◆推定時期：現状考え易い=4月9日±1

※但し上記時期が地震発生日である場合は4月7日 ±に前兆終息が条件。実際の終息を観測して修正。  
※また4月8日段階で前兆継続の場合は再考し続報

- ◇推定発生時刻：午前9時±1 (又は午後6時±3)
- ◇推定地震種：震源浅い陸域地殻地震